

川曲毘沙門前II遺跡

特別養護老人ホーム「あじさい園」増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。

市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、かつて800余りの古墳が存在していたように、上毛野の国を中心地として栄え、また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東四名城の一つに数えられる駿橋城が築かれました。やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。まさに、歴史性豊かな街です。

川曲毘沙門前II遺跡は、市の南西部川曲町に位置し、特別養護老人ホームあじさい園の増築に伴う発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108年）の浅間山噴火に伴う軽石に覆われた水田跡が発見されました。

本水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、平成10年度に実施した川曲毘沙門前遺跡に隣接する貴重な遺跡です。

本報告書を発行するにあたり、物心両面より多大な援助・協力をいただいた特別養護老人ホームあじさい園理事長 柳井米蔵氏にたいして厚く御礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成17年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 中原惠治

例　　言

- 1 本報告書は、特別養護老人ホーム「あじさい園」増築工事に伴う川曲毘沙門前II遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市川曲町 539番地1ほか
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長 中原恵治)の指導のもと、スナガ環境測設株式会社(代表取締役須永眞弘)が実施した。
- 調査担当者 小峰 篤・齊木一敏(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)
権田友寿・金子正人・神津芳夫(スナガ環境測設株式会社)
- 調査員 萩野博巳・猪熊正晴・山口和宏・戸根浩美(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成16年8月31日～平成16年9月18日
- 整理期間 平成16年9月19日～平成17年2月25日
- 5 調査面積 650m²
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永眞弘、調査助言…金子正人、調査担当…権田友寿・神津芳夫、測量…権田友寿・猪熊正晴、写真撮影…権田友寿、安全管理…神津芳夫、重機オペレーター…金子正人、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Iについては小峰 篤(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)、その他を権田友寿・萩野博巳が担当した。編集・校正…須永眞弘、実測図の整理他…権田友寿、構造トレース…権田友寿、写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。
- 9 自然科学分析は、国立科学博物館気候実験植物園 須永潔子(農学博士)が行った。
- 10 発掘調査に参加した方々(敬称略)
- 石川サワ子 内山恵美子 都丸藤子 小暮翠子 下田和子 渡辺国治
上村一視 大澤俊正 山本良政 近藤一夫 伊藤兵三 品川浪江

凡　　例

- 1 遺跡の略称 川曲毘沙門前II遺跡(16A84)。「毘沙門前」は旧地籍の小字名である。なお、遺跡名称中のローマ数字「II」は平成10年度調査の川曲毘沙門前遺跡と区別するため付したものである。
- 2 遺構名の略称 溝跡…W。
- 3 実測図の縮尺 遺構平面図1/200、1/400を使用。
- 4 挿入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。
基準点 A-0 グリッド地点 第IX系座標値 X 39,000.000m、Y -69,900.000m(日本測地系)、
水準点 B.M.1…92.00m、等高線 5cm、グリッド4m間隔。
- 6 土壟断面の土色名は『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局監修 財團法人 日本色彩研究所色票監修)による。
- 7 土層注記及び本文中には、1108年降下浅間山起因の軽石の略称をAs-Bとして使用した。
- 8 土層注記中の縦は縦まり、粘は粘性、○△×は4段階評価を記号化したもので○極有、○有、△やや有、×なしを表す。
- 9 各水田の面積は平面図をもとに座標面積計算により算出した。

目 次

序	
例 言	i
凡 例	i
目 次	ii
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	1
1. 遺跡の立地	1
2. 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	2
1. 調査方針	2
2. 調査経過	2
IV 層 序	4
V 検出された遺構と遺物	4
1. 水田の形状と水田面	4
(1) 形 状	4
(2) 水田面	4
2. 畦 畦	5
3. 水田土壤	5
4. 溝(W-1~4)	5
VI 自然科学分析	6
VII ま と め	7

挿 図

第1図 周辺遺跡図	2
第2図 遺跡位置図	3
第3図 基本上層断面図	4
第4図 畦群断面図	8
第5図 川曲鬼沙門前II遺跡平面図	9
第6図 川曲鬼沙門前II遺跡平面図	11

表

水田址計測表	5
畦群計測表	5

写真図版

- 1. 調査区全景(北から) 2. 畦群全景(北から)
- 3. 畦群全景(南から) 4. 畦群1と足跡状の窪み
- 5. 畦群1~4と交点 6. 畦群4~8と交点
- 7. 畦群8~10と交点 8. 畦群1 土層断面(北壁)

I 調査に至る経緯

平成16年2月、前橋市川曲町地内に所在する特別養護老人ホーム「あじさい園」より増築工事実施計画について協議を受けた。現行施設の建設にあたっては、平成9年度に試掘調査を行ない畦畔などの水田遺構を検出し、平成10年度に川曲毘沙門前遺跡として記録保存目的の発掘調査を実施している。今回の増築工事箇所が当該遺跡隣接地であることから、遺構の広がりが存在することは十分に想定された。平成16年5月、遺構の範囲を確定するため事前に確認調査を行うことで開発事業者と協議・調整を図り合意に達した。平成16年6月21日、確認調査の依頼を受け翌7月12日に確認調査を実施した。その結果、川曲毘沙門前遺跡と同様に平安時代の水田跡を検出した。遺構の現状保存に向けて開発事業者と協議を行ったが、建物の構造上困難であるため記録保存を目的とした発掘調査を実施することで了承を得た。平成16年8月3日、開発事業者である社会福祉法人 滝川会 理事長 柳井米蔵より前橋市教育委員会(以下「市教委」という。)宛に発掘調査依頼が提出された。これを受け市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団(以下「調査団」という。)へ調査実施の可否について打診したところ調査団での発掘調査実施状況を考慮すると直営調査は困難であるとの解答を受けた。このことから調査団では本調査実施に民間発掘調査会社を充てることで対応することとなり、開発事業者も承諾された。平成16年8月30日に調査依頼者である社会福祉法人 滝川会と調査団との間で発掘調査委託契約を締結した。その後、平成16年8月31付けで実際に調査にあたる民間発掘調査会社のスナガ環境測定株式会社と調査団との間で発掘調査委託契約を締結し調査開始に至る。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の立地

川曲毘沙門前II遺跡の所在する川曲町は前橋市の南西部に位置し、JR新前橋駅より南へ3km程の所にある。のどかな田園風景が広がる中、高等学校や短大をはじめとする教育施設も多く見られる。遺跡の周囲には東方約900mに主要地方道前橋・長瀬線、南方約1.1kmには主要地方道高崎・駒形線が東西に走り、関越自動車道高崎インターチェンジに接続する。東方約30mには滝川、西方約1.2kmには染谷川が南流し川沿いの市道には住宅地が連なる。本遺跡の北に位置する大利根盆地周辺も宅地開発が進んでいる。

本遺跡は前橋市西部及び南部を、北西から南東に広がる前橋台地のほぼ中央にあり、利根川の右岸に位置する。標高は約92~93mで緩やかに傾斜している。前橋台地は火山泥流堆積物とそれを被覆する水成ローム層から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の扇状地へと続く。

2. 歴史的環境

本遺跡(1)の所在する前橋台地周辺では1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道、近年では北関東自動車道の建設に伴う発掘調査で古代水田跡などが多く検出されている。

現在でも前橋市南部地域では、水田耕作が行われ滝川などの河川利用が見られる。本遺跡から染谷川を隔てた北西約2.6kmの高崎市域にある日高遺跡(11)は本県における水田研究の先駆となった遺跡で、大畦畔を検出した条里的割合の解明に大きく寄与している。

さらに南西約650mに位置する西島遺跡群II遺跡(5)では、東西方向3本、南北方向1本の大畦畔が検出されていることから、本遺跡付近に東西ラインの大畦畔が存在する可能性が考えられた。

本遺跡と同様に平安時代水田跡が多く検出されている主な遺跡をあげると、利根川の右岸側では川曲毘沙門前遺跡(2)、地蔵前遺跡(3)、京目作道遺跡(4)、新保遺跡(6)、柳橋遺跡(7)、前箱田遺跡(8)、稻荷遺跡(9)、箱田境遺跡(10)、勝呂遺跡(12)、箱田川西遺跡(13)、村前遺跡(14)、五反田遺跡(15)、五反田II遺跡(16)、下新田中沖遺跡(17)、下新田中沖II(18)、大沢遺跡(19)、萩原団地遺跡(20)、下新田遺跡(21)がある。左岸側では公田東遺跡(22)、櫛島川端遺跡(23)、中大門遺跡(24)などで検出されている。本遺跡の北西約4.2kmには、奈良・平安時代における上野国の政治・文化の中心地である推定国府城が存在する。このことから前橋市南西部は、高崎市の日高遺跡を含む律令社会を支える重要な水田地帯であったことが窺える。

III 調査の方針と経過

1. 調査方針

調査実施に際しては、調査団で設定したグリッドを基に調査区内にX30、Y10グリッド(旧座標系第IX系座標 X38,960,000、Y-69,780,000)を設定した。西から東へX1、X2、X3、…、北から南へY1、Y2、Y3、…とした。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は公共水準点に基づき調査区内に92.00mのB.M.を測設した。

図面作成は原則として、1/20、1/40等の縮尺を使用し、平板測量・遠方測量による細部測量で作図を行った。遺構・遺物等の写真撮影(白黒・リバーサルフィルム・デジタルカメラ)も行った。

2. 調査経過

平成16年9月1日 調査団と開発事業者立会いのもと調査範囲の確認を行った。その後、資材・重機類や休憩所・仮設トイレを搬入・設置し調査に着手した。まず重機による表土掘削を行った。現地盤より64~96cm掘下げジョレン精査によるプラン確認を行い畦畔を検出した。

9月6日 移植ゴテによる精査を実施し、As-B鉱石下の畦畔、水田面の遺構確認を進めた。

9月9日 水準・グリッド杭を調査区内に測設し、測量記録作業に入る。

9月11日 プラントオパール試料用の土壤サンプル採取作業を行う。

9月14日 水田の精査がほぼ終了し、調査区の高所写真撮影を行う。

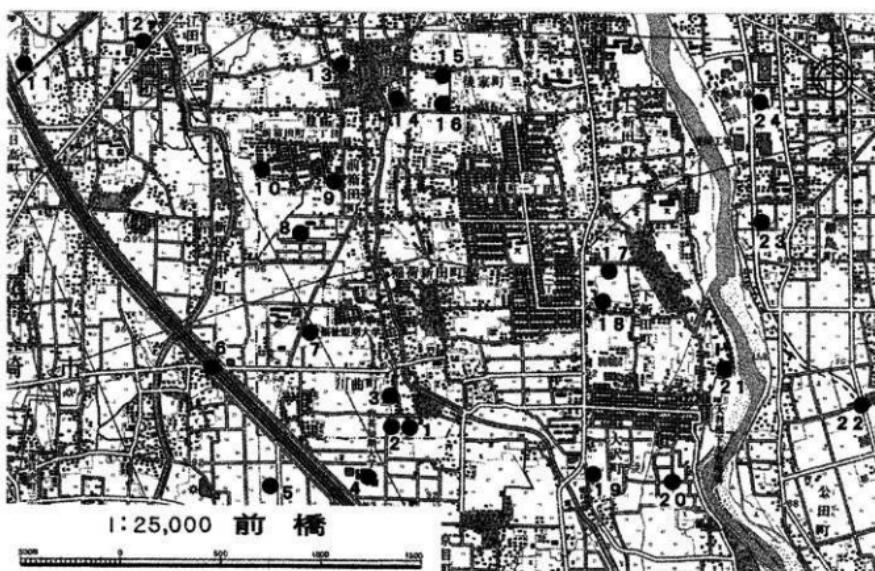
9月15日 調査団の調査終了検査を受け、遺跡調査を終了した。

9月18日 埋戻し・整地作業と器材類の撤収完了

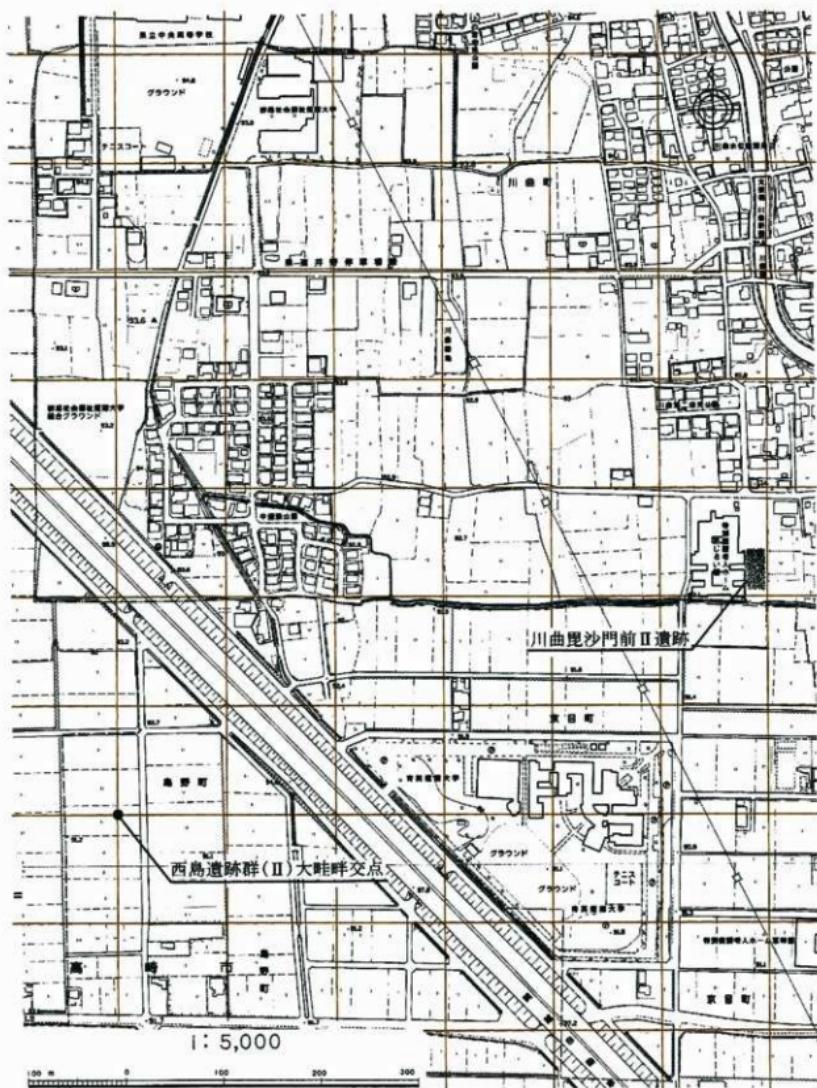
9月19日 整理作業開始

平成17年2月21日 印刷・製本

2月25日 報告書発行



第1図 周辺遺跡図

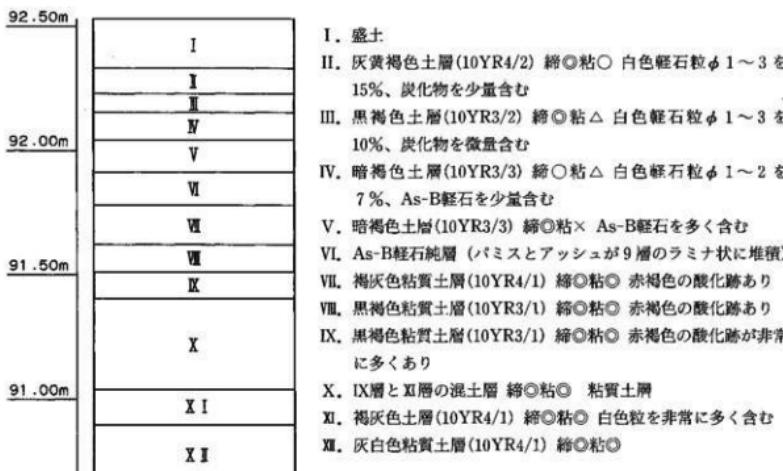


第2図 遺跡位置図 (109m方格)

IV 層序

本遺跡の基本土層は、調査区内の北東隅に入れた深掘りトレンチをもとに、模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第3図に示したとおりである。

第VI層がAs-B軽石層でその直下の第VII層が平安時代末期水田跡の土層である。土層断面写真は、図版を参照されたい。



第3図 基本土層断面図

V 検出された遺構と遺物

川曲毘沙門前II遺跡は、平安時代末期の浅間山噴火(天仁元年 1108年)に伴う軽石(As-B軽石)で埋没した水田跡7面と東西方向5本、南北方向5本の畦畔と時期不明の溝4条を検出した。

1. 水田の形状と水田面

(1) 形 状

調査区が施設増築用地の範囲のため狭小であり、四方を畦畔で囲まれた完全な区画のものは検出されなかった。形状の判別は難しい状況であるが隣接遺跡の調査結果や、検出した畦畔の交点や長さなどから推測して正方形や横長方形状の水田区画と考えられる。

(2) 水 田 面

現地盤より約64~96cm掘り下げて層厚4~12cmのAs-B軽石層下から水田面を検出した。水田面1枚ごとの比高差は2~5cmを測り緩やかに北西から南東方向に傾斜が見られる。また人の足跡と思われるものや性格不明な窪みはわずかに検出されたが、流水のための水口は検出されなかった。水田の標高は1号水田の北西角で91.85mを測り、南東角の7号水田で91.70mを測る。高低差は約15cmであることが確認でき、北西から南東方向にかけて3.75/1000mの勾配である。

また、6号水田の西側に溝4条が検出されている。いずれも水田面を掘り込んでいる。
遺物は出土しなかった。

水田址計測表

番号	グリッド	面積(m ²)	東畦(m)	西畦(m)	南畦(m)	北畦(m)	標高(m)				備考
							NW	NE	SW	SE	
1	X29・31, Y9~12	(90.83)	(10.65)		(4.23)			91.83		91.82	
2	X31~33, Y9~12	(86.66)		(10.80)	(7.83)		91.81		91.78		
3	X29~31, Y12~15	(125.72)	14.63		(2.50)	(4.29)		91.81		91.75	
4	X31~33, Y12~15	(102.11)		12.46	(8.10)	(7.81)	91.78		91.75		
5	X31~33, Y15~17	(80.81)		8.58	(8.91)	(7.33)	91.72		91.72		
6	X29~31, Y15~18	(96.88)	(12.25)			(2.22)		91.73		91.73	
7	X31~33, Y17~18	(47.12)		(5.55)		(8.89)	91.72				

注) ①確認値は、()で示した。 ②方位の北・南・西・東は、N・S・W・Eで示した。

2. 畦畔

畦畔の築造は黒褐色粘質土で水田土壤と同じ土層を削り原形を作ったと思われる。形状は押し潰された台形を呈し、水田面との比高差はあまりない。検出した畦畔は南北方向では、ほぼ座標北軸方向に走行し、東西方向の畦畔は検出部分が短いが南北方向の畦畔に直交する形で交差し、極端にずれる方向の畦畔は見られなかつた。

また、検出した畦畔の交点は、十字、丁字、L字、逆L字状に交差していた。

3. 水田土壤

As-B輕石層下の水田面の土壤は粘性で締まりのある黒褐色土である。厚さは8~12cm程度あり、水稻栽培に適していると思われる。また調査区で行ったプラントオバール採取結果では、稻作が行われていたことを示している。

畦畔計測表

番号	グリッド	上幅(cm)	下幅(cm)	畦畔の高さ(cm)				方 向	備 考
				N	S	E	W		
1	X30 , Y9~12	26.80	57.70			5.0	5.5	N-1°~E	
2	X30~31, Y12	28.20	57.80	3.5	3.0			N-93°~W	
3	X31~33, Y12	37.00	66.50	3.0	4.0			N-89°~E	
4	X31 , Y12~15	33.92	67.69			2.5	2.0	N-2°~W~N-4°~E	途中で曲がる
5	X31~33, Y15	33.66	67.00	2.5	4.0			N 88° E	
6	X31 , Y15	68.33	127.00			2.5	1.0	N-27°~E	
7	X30~31, Y15	26.00	80.00	2.0	2.5			N-91°~W	
8	X31 , Y15~17	21.57	70.85			2.0	1.5	N 2° E	
9	X31~33, Y17	21.39	73.00	2.0	2.0			N-96°~E	
10	X31 , Y17~18	26.14	62.85			3.0	2.0	N-4°~W	

注) 表の記載は以下の基準で行った。

①各項目は1/40の図面上で、畦畔は芯々面を計測し算出した。②上幅・下幅・高さは、それぞれの平均値である。

4. 溝(W-1~4)

X29・30、Y15~18グリッド内に4条検出した。

6号水田西側で水田面を掘り込んでいる。規模はW-1で検出長12.7m、上幅50~80cm、深さ14cm前後で緩やかなU字状の掘り込みである。W-2・3・4は検出長3~6.5mで上幅22~35cm、深さ5~6cm前後で浅いU字形の掘り込みである。いずれも規模は小さく部分検出である。また、W-1~4は、北から南方向への走行が

見られる。

時期はW-1が土層断面から基本土層の2・3層からの掘り込みが考えられ、新しいと思われる。W-2・3・4もAs-B軽石の混入がないことが新しい耕作痕とも考えられるが、部分検出のためはっきりと断定できなかつた。

VII 自然科学分析

1. はじめに

植物珪酸体は植物の細胞内に非晶質含水珪酸が充填することによって形成された鉱物である。また、植物により形状が異なることから土壤中から抽出・分析することによって古代の植生や環境の変遷を復元する手法として、自然科学では用いられてきた。イネに関しては水田跡の検出方法として研究が進み、イネのプラント・オパールが資料1 g中に5,000個以上と高い密度で検出された場合にそこで稻作が行われていた可能性が高いと考えられている。

(藤原・杉山 1984, 杉山・松田 1999)

2. 分析方法

第四紀資料分析法(近藤1995)を用いて、プラント・オパールを土壤中より分離し、400倍の偏光顕微鏡下で同定を行った。

3. 土壤試料採取地点

水田跡の確認されたAs-B直下層については、直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。そこで、畦畔1付近の北壁の水田面部分、畦畔部分からはAs-B直下層およびその下部(As-B直下層を0 cmとして7~15 cm)、確認のためAs-B層から土壤試料を採取し分析に供した。

4. 結果および考察

As-B層では、イネと考えられるプラント・オパールは検出されなかった。As-B直下層は、直上をAs-B層で覆われている。As-B層の結果より上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。

As-B直下層およびその下部層で全ての資料においてイネのプラント・オパールが1 g 中5,000~20,000個の密度で検出された。As-B直下層およびその下部における違いは明瞭ではなく、As-B直下層の下部においてもほぼ同程度の密度でイネのプラント・オパールが検出された。1 g 中5,000個を超える高い密度でイネのプラント・オパールが検出されたことから、水田面と考えられた層位では、稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。また、ヨシ類やタケ亞科が比較的多く検出され、ススキ属型なども少量検出された。As-B直下層では、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと推定される。

謝 詞

帝広畜産大学 近藤錦三教授には、ご指導いただき大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

引用文献

- 藤原宏志・杉山真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査一、考古学と自然科学、17, 73-85.
近藤錦三(1995) 植物珪酸体、第四紀資料分析法2, p.235-244.
杉山真二・松田隆二(1999) 植物珪酸体分析による農耕跡の検証と探査、水田跡・畝跡をめぐる自然科学－その検証と栽培植物 -p.13-15.

VII まとめ

川曲毘沙門前II遺跡の所在する前橋台地周辺は、大規模開発事業に伴い古代水田址の発掘調査が盛んに行わってきた地域である。関越自動車道の建設に伴い行われた、日高遺跡(高崎市)をはじめとする調査では県内の古代水田址研究を確立させた。特に一連の調査研究の進展によりAs-B軽石(浅間B軽石:1108年)で埋没した水田址は、条里制に基づく土地区画であり、律令制の下での土地制度であったと考えられる。本遺跡から検出された水田址も平安時代末期に浅間山の噴火に際して降下した、As-B軽石で埋没した遺構であった。

また西側に隣接する川曲毘沙門前遺跡(1998年調査)の調査では、大畦畔の検出はなかったが、各水田を区画する畦畔は、ほぼ東西・南北方向に走行し互いに直交するなどの規則性を維持していた。水田形状もすべて東西に長辺をもつ長方形であることから条里制に起因する一定の規格性を持つものと考えられている。

本遺跡も、As-B軽石に埋没した水田面が7面検出されている。それを区画する畦畔は東西5本、南北5本で東西南北にはほぼ直交し規則性を持つ。また、畦畔は押し潰された台形状である。遺存の状況は北側では良いが、南側では悪い。水口は検出されず各水田への配水方法ははっきりしないが、検出した水田の高低差から見ると北西側にある1号水田から、南東側にある7号水田への配水であることが言える。

水田面には、人の足跡と思われる窪みが見られたが、方向性を窺い知るものはなく、水田作業と関連するか判断する状態ではなかった。

また、水田の状態を観察すると水田面上には、As-B軽石が一様に堆積していることから、除去したり、搔き寄せて復旧した痕跡は認められなかった。

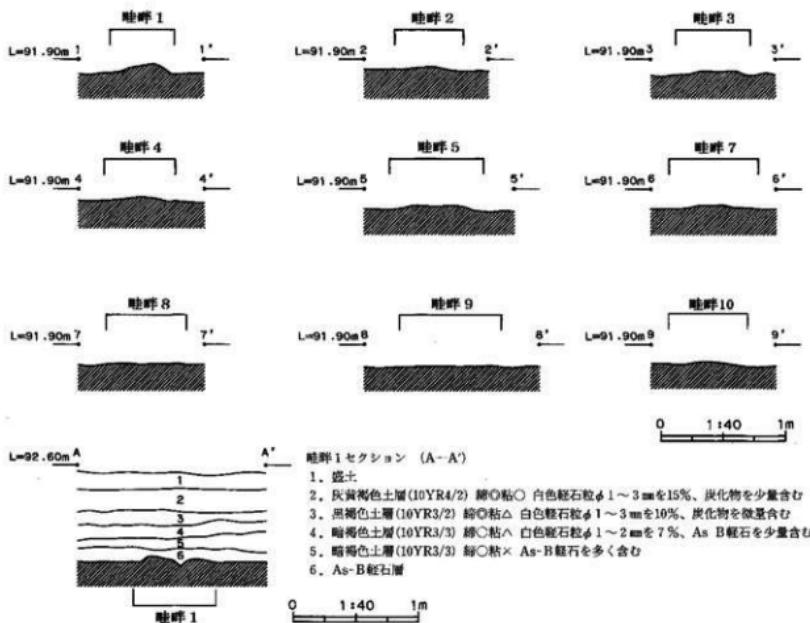
本遺跡の条里制との関連では、大畦畔の検出はなかったが、ほぼ東西・南北方向に直交する畦畔が10本検出され、規則性があることがわかる。水田形状も検出した畦畔の長さや隣接する遺跡の区画などから推測すると畦畔の一辺が15mの正方形に近い大きさが考えられ、条里区画の長地形や半折形の区画と比較しても規模が縮小している。

また条里制の基本である1町(約109m)方画の面積(1坪)をもとに、本遺跡にあてはめて考えてみたい。隣接する川曲毘沙門前遺跡で検出した水田区画を考慮しつつ、本遺跡に最も近い高崎市にある西島遺跡群IIの坪交点(西島遺跡群II 図-5 坪割図の坪交点イより座標X38,698.000, Y-70,403.000)の大畦畔をもとに距離を坪数で数えると、北西角の坪界から北へ3坪、東へ6坪の位置にあたると推定できる。

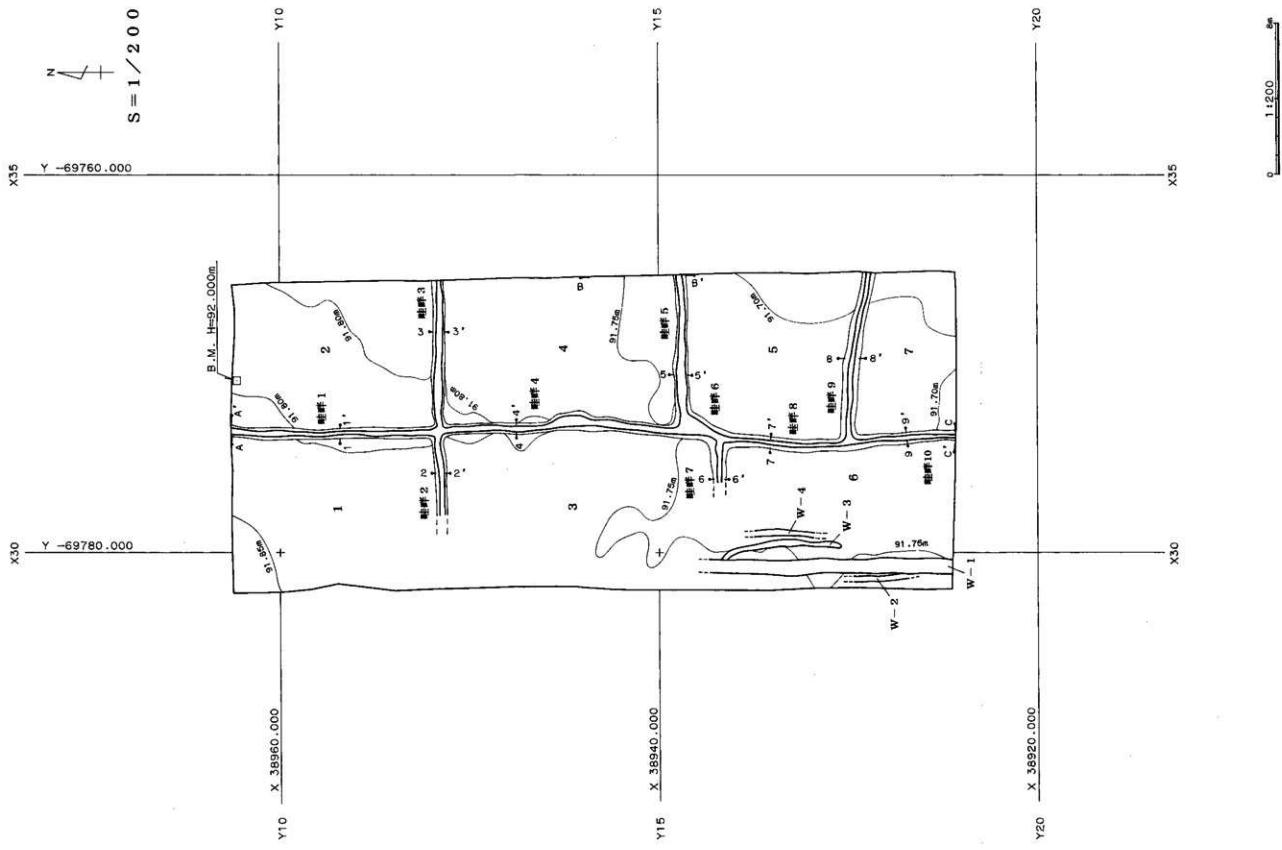
本遺跡で検出した畦畔は上記の結果にあてはめると、条里区画の大畦畔にあたらず、調査範囲から近い所で東西ラインで約9m南、南北ラインで約16m東に大畦畔が位置すると思われ、大畦畔からはずれ、条里地割を確定するに至らなかった。また、近隣には「市之坪・一町田」という地名が残っていることや本遺跡から推定国府域が至近距離にあり、付近の調査でも水田跡の検出が多いことを合わせれば、条里制の施行区域であり、律令制を支えた生産域であったと思われる。現在も水田地帯が広がり、検出された南北に走行する畦畔と現在の畦畔が同一線上に重なり、古代水田の名残りを留めている。

参考文献

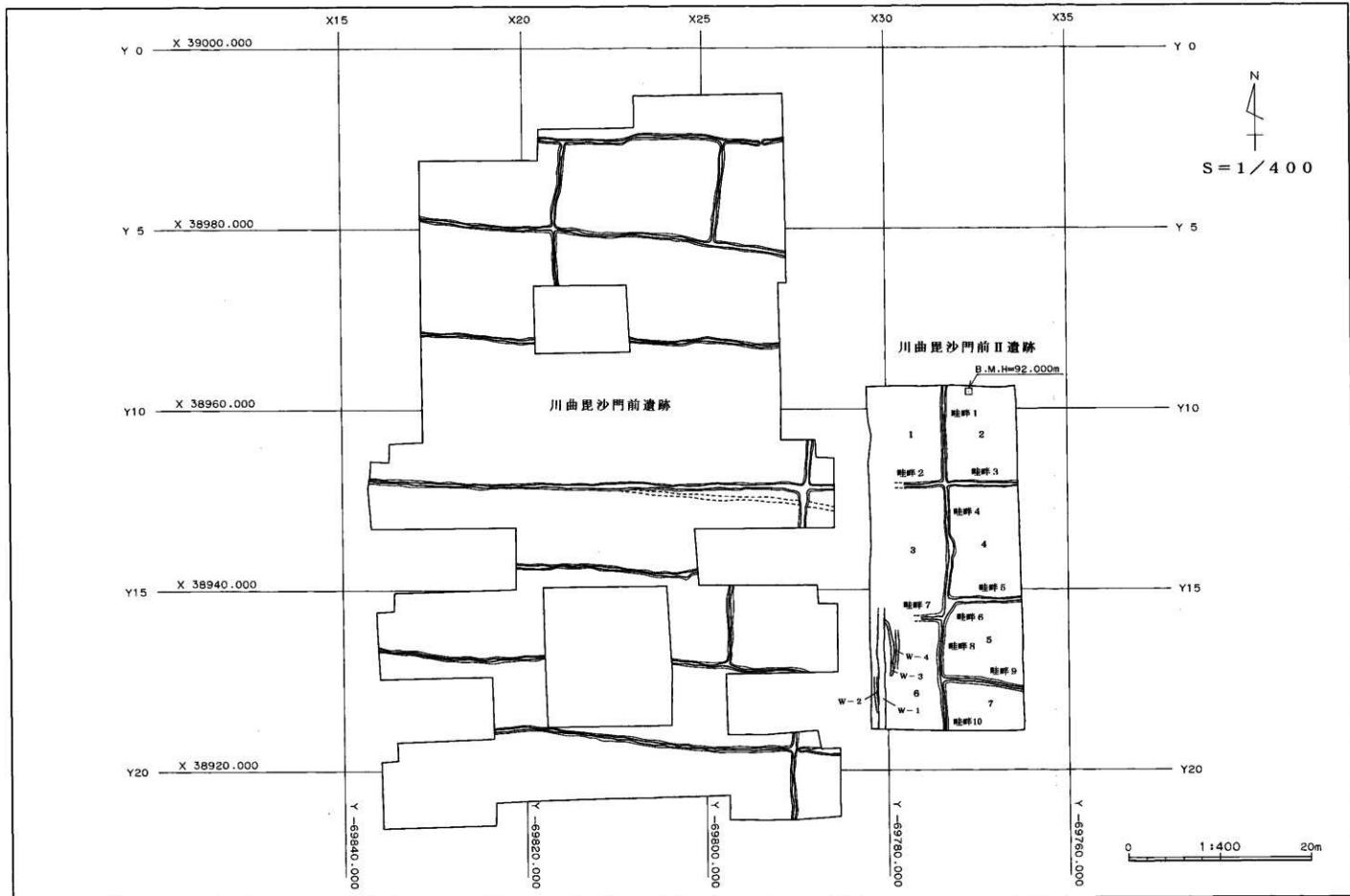
- | | | |
|-----------|------|---------------|
| 宮地中田遺跡 | 1997 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 稻荷遺跡 | 1997 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 下新田中沖遺跡 | 1998 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 西島遺跡群(II) | 1985 | 高崎市教育委員会 |
| 川曲毘沙門前遺跡 | 1998 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 前箱田村西II遺跡 | 2000 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |



第4図 吐畔断面図



第5圖 川曲尾沙門前庄遺跡平面圖



第6図 川曲毘沙門前遺跡・川曲毘沙門前II遺跡平面図



1. 調査区全景（北から）



2. 哉畔全景（北から）



3. 哉畔全景（南から）



4. 哉畔1と足跡状の産み



5. 哉畔1~4と交点



6. 哉畔4~8と交点



7. 哉畔8~10と交点



8. 哉畔1上層断面（北壁）

抄 錄

フリガナ	カワマガリビシャモンマエニイセキ
書名	川曲毘沙門前II遺跡
副書名	特別養護老人ホーム「あじさい園」増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編集者名	スナガ環境測設株式会社 横田友寿
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2丁目10-2
発行年月日	西暦2005年2月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
カワマガリビシャモン 川曲毘沙門 前II遺跡	マスハシシ 前橋市 カワマガリビ 川曲町	10201	16A84	36°24'50"	139°01'52"	20040831 20040918	650m ²	特別養護 老人ホーム 増築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
川曲毘沙門前 II遺跡	水田跡	平安時代	水田跡 7面	なし

川曲毘沙門前II遺跡

2005年 2月21日 印刷

2005年 2月25日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町2丁目10-2

編集 スナガ環境測設株式会社

前橋市青柳町211番地の1

